

## 変容する少年犯罪から考える「少年法」の存在意義

増加に歯止めがかからない少年犯罪。その変容の象徴として、少年が闇バイトの実行役に使い捨てられる事件が社会問題化しています。なぜ犯罪組織は彼らをターゲットにするのか。本講義では、大人と異なる少年犯罪者への取扱いを解説し、その構造を紐解きます。現代における少年法の存在意義を一緒に考えてみましょう。

---

11月12日（木）

13:30～15:00

---

### 講 師

笹山 文徳

名古屋学院大学法学部准教授。

「刑事訴訟法」や「刑事政策」の科目を担当。専門は刑事訴訟法。特に捜査の適正化に向けた法制度の研究を行っている。

### 講義の対象

興味のある方ならどなたでも。

### 定 員

20名

### 受講料

1,000円